

島原半島ジオパークリーフレット：歴史

島原半島ではどのような歴史的な出来事があったか？

何千年もの間、人間は島原半島に住み続けてきた。きわめて長い間、雲仙と島原は権力の場からは遠く離れた僻地であった。それが変わったのは雲仙の山々が仏教の信仰と学問の場所になった 8 世紀である。16 世紀後半になると、長崎市は国際港になり、島原はキリスト教への改宗者の数が最も多い地域のひとつであった。1600 年代にはキリスト教が禁止され、半島はキリシタンと幕府とのすさまじい戦いの場となった。1792 年には地震と津波の影響により約 1 万 人が亡くなった。1800 年代後半から 1900 年代の初頭にかけては、島原は東アジアに住む西洋人の観光旅行先であった。

島原の乱とは？

キリスト教は 1614 年に徳川幕府によって禁止されたが、西九州にはまだ大勢の日本人キリスト教徒がいました。同年、徳川幕府は島原のキリシタン領主を解任し、代わってキリシタンを迫害し重税を課した新しい領主に交代させた。反乱は 1637 年の冬に始まり、島原と天草のキリスト教徒が幕府によって設置された領主に反乱を起こした。37,000 人の反乱軍が原城を占拠し、1638 年 4 月、125,000 人以上の幕府軍が原城を制圧するまで、原城を占拠し続けた。城が奪還された後、キリスト教の農民約 3 万人が処刑された。島原の乱は江戸時代(1603 - 1867)最後の大戦とされる。幕府は、外国人、特にポルトガル人がキリスト教を利用して日本を弱体化させ、表面上は植民地化を容易にしていると非難したため、日本はその後 230 年間、世界から隔離されることになった。

半島の歴史における最大の自然災害は何か？

1792 年 5 月 21 日、数か月に及ぶ地震や火山爆発が半島中で続いた後、眉山の一部が崩壊し、島原の町に到達する岩屑なだれを生んだ。なだれは海に達すると、有明海

を渡り現在の熊本県の肥後市にまで押し寄せる津波を引き起こした。そして返し波が再び島原を襲い、最終的に 1 万 5 千人の死者をだした。岩屑なだれと結果的に生じる津波を模擬実験すると、一連の出来事の過程全体はたった 3 分続いただけだったようだ。この災害は被害の甚大さに関連して「島原大変肥後迷惑」として知られている。災害直後に書かれたたくさんの文書やスケッチなどが、当時の人々がこの恐ろしい出来事にどのように対応したかを知る助けとなっている。